



2026年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年6月30日

上場会社名 株式会社しまむら 上場取引所 東
コード番号 8227 URL <https://www.shimamura.gr.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 高橋 維一郎
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 執行役員 (氏名) 辻口 芳輝 TEL 048-631-2131
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（アナリスト・機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年2月期第1四半期の連結業績（2025年2月21日～2025年5月20日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年2月期第1四半期	168,369	2.4	15,311	5.0	15,812	4.3	10,802	3.5
2025年2月期第1四半期	164,466	4.7	14,579	0.3	15,161	2.8	10,435	4.0

（注）包括利益 2026年2月期第1四半期 11,286百万円（0.4％） 2025年2月期第1四半期 11,243百万円（7.6％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年2月期第1四半期	146.96	—
2025年2月期第1四半期	141.97	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2026年2月期第1四半期	584,689	504,579	86.3
2025年2月期	567,144	500,976	88.3

（参考）自己資本 2026年2月期第1四半期 504,579百万円 2025年2月期 500,976百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年2月期	—	95.00	—	105.00	200.00
2026年2月期	—				
2026年2月期（予想）		100.00	—	105.00	205.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年2月期の連結業績予想（2025年2月21日～2026年2月20日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
第2四半期（累計）	345,053	4.4	32,272	2.8	32,923	2.9	22,630	2.4	307.88
通期	692,640	4.1	60,690	2.4	61,990	2.3	42,858	2.3	583.07

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

詳細は、添付資料P. 10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- | | |
|----------------------|-----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更 | : 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| ④ 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年2月期1Q	73,826,598株	2025年2月期	73,826,598株
② 期末自己株式数	2026年2月期1Q	318,637株	2025年2月期	322,935株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年2月期1Q	73,506,605株	2025年2月期1Q	73,503,608株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は業況の変化等により、上記予想値と異なる場合があります。

なお、上記予想に関する事項は添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

当社は、2025年6月30日（月）に決算説明会（アナリスト・機関投資家向け）を開催する予定です。

決算補足説明資料は、決算発表後速やかに当社ホームページに記載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等の注記)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国の経済は、食料品の価格上昇などにより個人消費が伸び悩んだ結果、1～3月期の実質GDPは年率換算で0.2%のマイナス成長となりました。また、世界経済では、米国の関税政策の変動、欧州のウクライナ危機に伴うエネルギー不足、中国の不動産市場の停滞など、さまざまな要因が国内外の景気を押し下げる可能性があり、引き続き先行きの見通しは不透明な状況が続いています。

1) 消費環境の概要

- ①当第1四半期連結累計期間において、国内の消費環境は、賃上げ率の上昇が見られる一方で、原材料価格の高騰などにより食料品や日用品の値上げが家計を圧迫しました。その結果、消費者の節約志向は依然として強く、衣料品の販売を含む消費活動は厳しい状況が続きました。
- ②天候については、平均気温は平年並みであったものの、季節を通じて気温の寒暖差が大きく、特に5月は雨量が多く、夏物衣料の販売にとって対応が難しい天候となりました。

2) 当社グループの状況

このような状況下において、当社グループは2025年度のグループ統一テーマを“ネクスト・チャレンジ2nd『限界を改め更なる高みへ』”と設定しました。中期経営計画2027の2年目を迎えるにあたり、社員全員の創意工夫をもって様々な課題に挑戦し、しまむらグループの強みを更に強固なものとしします。

3) しまむら事業

- ①しまむら事業は、商品力の強化として、自社開発ブランド(Private Brand、以下PB)およびサプライヤーとの共同開発ブランド(Joint Development Brand、以下JB)の品揃えを拡充しました。PBでは、累計販売枚数1億1,500万枚を達成した「FIBER DRY(ファイバードライ)」が堅調に推移しました。また、長く使えるシリーズの「ヘビロテ」、家族のくらしをラクにするシリーズの「ラクっと!」、日常から特別なシーンまでどこでも活躍するシリーズの「どこでもっと!」など、昨年には無かった新企画が売上の底上げに繋がりました。また、JBでは、「SEASON REASON(シーズンリーズン)」において、素材にこだわったアイテムや春のボトムス特集、夏のTシャツトレンド特集などが好調に推移しました。
 - ②販売力の強化では、気温に左右されにくい売上作りを目指し、インフルエンサーやキャラクターを活用した企画の拡大や、客層や店舗の特性に応じた地域別の施策を推進しました。また、オンラインストアにおいては、都市部店舗を中心に店舗受取サービスが引き続き好調に推移しており、実店舗とオンラインの相互送客が一層進みました。
- 当第1四半期連結累計期間は2店舗を開設、2店舗を閉店し、店舗数は1,416店舗となりました。
- また売上高は、前年同期比1.7%増の1,219億23百万円となりました。

4) アベイル事業

アベイル事業は、商品力の強化として、JBを中心としたトレンド提案を推進するとともに、人気急上昇のギャルファッションを素早く展開することで、幅広いターゲット層を取り込みました。キャラクター商品では、人気キャラクターの誕生日を祝う企画や映画コラボなどの施策に加え、ラインロビングによる品揃えの拡充を進めました。販売力の強化では、5月の大型連休における重点催事において、4月27日の単日売上高が過去最高を記録しました。

当第1四半期連結累計期間の店舗開設・閉店は無く、316店舗での営業となりました。

また売上高は、前年同期比5.3%増の172億56百万円となりました。

5) バースデイ事業

バースデイ事業は、商品力の強化として、主力のJBやPBに加え、キャラクター商品や入園・入学向けのオケージョン商品など、多彩な商品展開を通じて、幅広いターゲット層を取り込みました。販売力の強化では、SNSやデジタルを活用した販促に加え、店舗イベントやオンラインストアとの連動販売を積極的に推進しました。

当第1四半期連結累計期間の店舗開設・閉店は無く、336店舗での営業となりました。

また売上高は、前年同期比2.3%増の224億64百万円となりました。

6) シャンブル事業

シャンブル事業は、商品力の強化として、主力JBのブラッシュアップに加え、インフルエンサー企画やキャラクター商品の展開を推進しました。販売力の強化では、前年度から順次拡大している2024年型レイアウトの店舗の売上が好調だったことに加え、オンラインストアの活用を推進しました。

当第1四半期連結累計期間の店舗開設・閉店は無く、123店舗での営業となりました。

また売上高は、前年同期比6.6%増の44億円となりました。

7) ディバロ事業

ディバロ事業は、トレンド商品の「立ったまま履ける靴」が好調に推移しました。また、春休みや5月の大型連休に伴う外出需要に合わせた防水仕様のスニーカーや幅広サイズのシューズの販売が好調でした。

当第1四半期連結累計期間は1店舗を開設し、店舗数は17店舗となりました。

また売上高は、前年同期比9.1%増の2億61百万円となりました。

- 8) 以上の結果、当第1四半期連結累計期間の日本国内の業績は、売上高1,663億6百万円（前年同期比2.3%増）、営業利益152億80百万円（同5.3%増）、経常利益158億11百万円（同4.6%増）、四半期純利益は108億2百万円（同4.0%増）となりました。

9) 思夢樂事業

台湾全域で店舗を展開する思夢樂は、20代から60代の女性とその家族をターゲットとした総合衣料の専門店として、日常生活に必要なソフトグッズがお客様の欲しい時に必ずある店舗の実現に向けて、事業の展開を進めています。商品力の強化においては、思夢樂オリジナル商品やラインロビングによる品揃えの拡充を推進しました。販売力の強化では、SNSとインフルエンサーの活用を積極的に進めたことで、ブランド知名度が向上しました。

当第1四半期連結累計期間は1店舗を閉店し、店舗数は43店舗となりました。

また売上高は、前年同期比9.1%増の4億28百万NT\$（20億63百万円）となりました。

- 10) 以上の結果、当第1四半期連結累計期間の連結業績は、売上高1,683億69百万円（前年同期比2.4%増）、営業利益153億11百万円（同5.0%増）、経常利益158億12百万円（同4.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は108億2百万円（同3.5%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

1) 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ、175億44百万円増加し、5,846億89百万円となりました。これは主として、商品の増加179億49百万円、売掛金の増加86億51百万円、流動資産のその他の増加30億50百万円、投資その他の資産のその他の増加25億85百万円、現金及び預金の減少156億85百万円によるものです。

負債は前連結会計年度末と比べ、139億40百万円増加し、801億9百万円となりました。これは主として買掛金の増加141億4百万円、流動負債のその他の増加27億54百万円、賞与引当金の増加20億87百万円、未払法人税等の減少52億62百万円によるものです。

純資産は前連結会計年度末と比べ、36億3百万円増加し、5,045億79百万円となりました。これは主として利益剰余金の増加30億83百万円によるものです。

2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、営業活動及び新規出店等による投資活動、ならびに財務活動を行った結果、前年同四半期連結累計期間末に比べ94百万円減少し、1,455億14百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動に使用した資金は、前年同四半期連結累計期間と比べ、75億24百万円増加し、34億59百万円となりました。これは税金等調整前四半期純利益156億84百万円、仕入債務の増加額140億93百万円、その他の流動負債の増加額26億60百万円、賞与引当金の増加額20億83百万円、減価償却費15億65百万円等に対し、棚卸資産の増加額179億13百万円、法人税等の支払額96億7百万円、売上債権の増加額86億51百万円、その他の流動資産の増加額30億62百万円等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動に使用した資金は、前年同四半期連結累計期間と比べ、353億92百万円増加し、496億6百万円となりました。これは有価証券の取得による支出1,290億円、投資有価証券の取得による支出27億円、有形固定資産の取得による支出21億1百万円等に対し、有価証券の償還による収入840億円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動に使用した資金は、前年同四半期連結累計期間と比べ、21億83百万円増加し、76億63百万円となりました。これは配当金の支払額76億59百万円等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2025年3月31日の決算短信で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年2月20日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年5月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	161,200	145,514
売掛金	13,726	22,377
有価証券	135,795	136,394
商品	56,829	74,779
その他	2,876	5,926
流動資産合計	370,429	384,992
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	89,224	89,025
土地	51,286	51,304
その他（純額）	2,103	2,787
有形固定資産合計	142,614	143,118
無形固定資産		
借地権	1,000	987
ソフトウェア	—	107
ソフトウェア仮勘定	—	17
無形固定資産合計	1,000	1,112
投資その他の資産		
差入保証金	15,355	15,134
その他	37,756	40,342
貸倒引当金	△11	△11
投資その他の資産合計	53,100	55,465
固定資産合計	196,715	199,696
資産合計	567,144	584,689

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年2月20日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年5月20日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	24,066	38,170
未払法人税等	10,699	5,436
賞与引当金	3,725	5,812
執行役員賞与引当金	—	15
その他	17,114	19,868
流動負債合計	55,605	69,303
固定負債		
定時社員退職功労引当金	1,179	1,331
役員退職慰労引当金	8	8
執行役員退職慰労引当金	256	320
退職給付に係る負債	2,036	2,046
資産除去債務	6,634	6,652
その他	446	446
固定負債合計	10,562	10,805
負債合計	66,168	80,109
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,086	17,086
資本剰余金	18,673	18,692
利益剰余金	461,664	464,747
自己株式	△1,415	△1,398
株主資本合計	496,008	499,128
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,435	5,953
繰延ヘッジ損益	—	△0
為替換算調整勘定	△325	△361
退職給付に係る調整累計額	△141	△139
その他の包括利益累計額合計	4,968	5,451
純資産合計	500,976	504,579
負債純資産合計	567,144	584,689

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第 1 四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第 1 四半期連結累計期間 (自 2024年 2 月 21 日 至 2024年 5 月 20 日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 2025年 2 月 21 日 至 2025年 5 月 20 日)
売上高	164,466	168,369
売上原価	108,497	109,538
売上総利益	55,969	58,831
営業収入	341	325
営業総利益	56,310	59,157
販売費及び一般管理費	41,730	43,845
営業利益	14,579	15,311
営業外収益		
受取利息	60	204
受取配当金	39	12
投資有価証券売却益	190	—
包装資材売却益	38	40
受取補償金	143	—
為替差益	64	207
雑収入	45	36
営業外収益合計	582	501
営業外費用		
整理済商品券回収損	0	0
雑損失	0	0
営業外費用合計	0	0
経常利益	15,161	15,812
特別損失		
固定資産除売却損	46	83
減損損失	72	41
災害による損失	8	2
その他	7	0
特別損失合計	135	127
税金等調整前四半期純利益	15,026	15,684
法人税等	4,590	4,881
四半期純利益	10,435	10,802
親会社株主に帰属する四半期純利益	10,435	10,802

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年2月21日 至 2024年5月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年2月21日 至 2025年5月20日)
四半期純利益	10,435	10,802
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	820	518
繰延ヘッジ損益	—	△0
為替換算調整勘定	△14	△35
退職給付に係る調整額	0	2
その他の包括利益合計	807	483
四半期包括利益	11,243	11,286
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	11,243	11,286
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年2月21日 至 2024年5月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年2月21日 至 2025年5月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	15,026	15,684
減価償却費	1,469	1,565
減損損失	72	41
賞与引当金の増減額(△は減少)	1,967	2,083
執行役員賞与引当金の増減額(△は減少)	11	15
定時社員退職功労引当金の増減額(△は減少)	1	151
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△65	—
執行役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△18	64
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△27	3
受取利息及び受取配当金	△100	△216
為替差損益(△は益)	△58	△211
固定資産除売却損益(△は益)	46	83
投資有価証券売却損益(△は益)	△190	—
売上債権の増減額(△は増加)	△7,571	△8,651
棚卸資産の増減額(△は増加)	△13,198	△17,913
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△593	△3,062
仕入債務の増減額(△は減少)	13,464	14,093
その他の流動負債の増減額(△は減少)	2,424	2,660
その他	△421	△422
小計	12,240	5,968
利息及び配当金の受取額	92	180
法人税等の支払額	△8,267	△9,607
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,065	△3,459
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△114,000	△129,000
有価証券の償還による収入	104,100	84,000
有形固定資産の取得による支出	△2,386	△2,101
有形固定資産の売却による収入	16	0
有形固定資産の除却による支出	△43	△65
無形固定資産の取得による支出	—	△74
投資有価証券の取得による支出	△2,200	△2,700
差入保証金の差入による支出	△283	△279
差入保証金の回収による収入	595	599
その他	△11	15
投資活動によるキャッシュ・フロー	△14,213	△49,606
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△6	△3
配当金の支払額	△5,474	△7,659
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,480	△7,663
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	43
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△15,626	△60,685
現金及び現金同等物の期首残高	161,235	206,200
現金及び現金同等物の四半期末残高	145,608	145,514

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2024年2月21日 至 2024年5月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	日本	海外	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
売上高					
外部顧客への売上高	162,563	1,902	164,466	—	164,466
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	162,563	1,902	164,466	—	164,466
セグメント利益	14,510	69	14,579	—	14,579

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当第1四半期連結累計期間(自 2025年2月21日 至 2025年5月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	日本	海外	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
売上高					
外部顧客への売上高	166,306	2,063	168,369	—	168,369
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	166,306	2,063	168,369	—	168,369
セグメント利益	15,280	31	15,311	—	15,311

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。